

2017/4/14

## (日々雑感 77) 補遺版 小加筆版



朝鮮半島の北の国が信託統治領になって米国が駐留したら大変なことになるぞ！

と言うお話は既にしました。

ここで、ぼくが習近平さんの気持ちになってその先を少し考えてみようと思います。

ある自治会の防犯セミナーで「泥棒の被害に遭わないためには、泥棒の気持ちになって考えてみるのが一番です。その裏をかけば良いんですから。泥棒のことは泥棒に訊け！です」と、招待されて講演された元科警研で現在ある大学の心理学の先生がおっしゃってましたから。

別にいまここで、習近平さんが泥棒だと断じているわけではないので、誤解しないで下さいませ。

さて、習近平さんになってみましょう。

「折角、長い年月かけて、尖閣諸島や沖縄の独立国化などにより、太平洋に出て、米国を直接にらむ戦略を立てたのに、その一角の北の国に米国が入ってきたら、今まで布石を打ってきた苦労が水の泡になるな。そうそう簡単に応じるわけにはいかんぞ」

ここからは僕の予測です。かなり一方的な。

「もともと、目の前に横たわっている日本を手に入れたかった。前回の世界大戦で「あまりにもかけたご迷惑」を「とても真摯によく反省している」国民もいるし、侵略戦と防衛戦を味噌もクソも一緒にして報じてくれる「大きな新聞やテレビ」もあることだし、闘わずして懐柔できる情報戦にはもう十分勝っていた。だから、これを機に、反米国の隣国、ロシアのプーチンさんと手を結んで、北は北方の四つの島から始まって、サハリン、ウラジオストク、平壤、中国、尖閣、沖縄と、それに日本の中において「とても力を貸してくれる有り難い方々」との包囲網による日本追い出し作戦を明日にも切ろうとしていた矢先に、エライことになってしまった。あの北の国のデブで阿呆な若造のせいで」

かなりどぎつい推測です。まだあります。

「いずれはロシアと手を結んで、逆信託統治領で日本を分け合って占領しようと思っていた。無血革命で。日本の国民は誰も火器を取らないから。それはとても悪いことだと十分反省しているし。ひとつ東京あたりで線を引いて、ロシアと分けるか。東日本はハゲのあいつ

に。西日本は髪の毛ふさふさのおれが。それで文句は言うまい。オマケにカツラでもつけるか？ワハハ！！

確かに、信託統治するには国連のお墨付きが必要だが、手は打ってあった。まず、常任理事国の日本はなくなっている。代わりにイギリスとは裏を通してある。我が中国が主導するAIIB（アジアインフラ投資銀行）の件で、甘い汁を吸わせる約束で既に「キンタマ」を握っているからこちらにつかざるを得ない。

要するに男は金と女だ。女は金と男だ。主義でも思想でもない。それが一番深い哲理だ。世の中の。ウヒ！

そもそも EC を離脱したのだから、いずれ EU は崩壊するとイギリスが読んで、我々中国と手を握ったのだろう。それにもう一つの常任理事国のインドも押さえてある。相手は米国と理事国の中ではせいぜいフランス。少なくとも 4 対 2 になるからな。オバマさんだったら出来たのに。ヒラリーでもできた。でも、妙なヤツが出てきた。トランプだ。オマケにジョーカーのトランプをひかされそうになっている。うーむ。どうしたものかなあ。

とにかくぎりぎりまで、引き延ばそう。我が積年の夢の「習近平王朝」を実現するためには、そうそう簡単に OK を出すわけにはいかんしな。なにか、よっぽどの手土産がないとな。さて、なににするかな？」

これらの予測は全く僕個人の予測です。敢えて言えば、大きな会社の新聞を読まずテレビも見ず、文献も読まずに「ネットの小さな記事」をひたすら読んだ上での推測です。

全て当たっているとは思いませんが、全て外れているとも思いません。

こんな風な見方をするようになったのは、新聞にしる、テレビにしる、公的機関にしる、常識にしる、上から一方的に下りてくる情報というものがいかにいい加減でねじ曲げられているか、あるいは思い込みで誤った解釈や判断をしているかを、既に 3 ヶ月近い「サバイバル生活」の中でイヤというほど味わったからです。真に受けていたら生き残れない。

上司の指示に従って企画した。しかし、ちっとも売れなかった。

「だったら、一からじぶんで企画案作ってみっか！」

と思ったおよそ 40 年前の自分に返ることが出来たからです。

まあ、ここまで書いたんだからボコボコにされることは覚悟しております。ハイ！